

地域に根ざした施設を目指す

触れ合って

絆の杜

支えあって

第30号 平成23年3月31日

発行所

社会福祉法人 光道園

鯖江 福井県鯖江市和田町9
TEL (0778) 62 - 1234 (代)
FAX (0778) 62 - 0890

朝日 福井県丹生郡越前町朝日22
TEL (0778) 34 - 1220 (代)
FAX (0778) 34 - 2099



高齢福祉二課 施設に入所され初めてのミニ運動会にて、パン食い競争での一コマです。その後は、パンをおやつにコーヒータイムを満喫し笑顔があふれています。

主な内容

地域が必要とする福祉をめざして… P2

楽しみを心に描いて… P3

正装にて… P4

待っていた餅つき… P5

クッキー工房 フ・クレール… P5

新年会… P6

のぞみ工房 陶華星… P6

笑顔があふれる棟活動… P7

感謝いたします！クリスマスケーキ贈呈… P8

第十回 光道園公開セミナー… P8

生活支援事例報告会… P9

新任職員の紹介… P9

グリーンカーテンコンテスト… P10

飲酒運転根絶寄せ書きコンクール… P10



地域が必要とする福祉をめざして

光道園 園長 土肥 芳一

平成二十二年の年末から降り続いた雪は、大寒の平成二十三年一月末には本格的な雪となり昭和六十一年以来、二十五年ぶりの大雪で降雪量も県内各地で一メートルを超え、雪下ろしの事故等で亡くなる方も連日出るほどでした。大雪も二、三日すれば小康状態となり、利用者の食材が滞ることもなく、また、利用者の送迎時や職員の通勤時の事故もなく平常の支援ができ、一安心でした。

こうした中、平成二十三年四月から鯖江事業所において、障害者自立支援法による障害者相談事業を鯖江市からの委託事業として開始することになり、平成二十三年一月からその準備段階として、取り組み始めました。名称は「こうごうえん」とし、誰からも気軽に利用しやすい印象にと名付け、一人の相談支援員が担っていきます。一足先の平成十八年十月に越前町から委託を受けて始めている「越前町障害者相談センター」と情報を共有しながら協力していくことになりました。

「越前町障害者相談センター」は越前町内はもちろん、鯖江市等を含む丹南地区、時には福井県内を対象に「こうごうえん」同様、一人の職員が福祉ニーズに多面的に、幅広く対応しながら、家族、施設学校、行政等と連絡を密にしながらかんがえています。その成果として、障害者当事者やご家族等から困っている時や迷っている時に、親身になって適切なア

ドバイスができており、とても頼りにされています。

「越前町障害者相談センター」で培った経験を生かして、福祉ニーズの発掘に心がけ鯖江市内においても、「こうごうえん」の存在をいち早く知っていただき、地域資源を有効に活用するコーディネートが求められますので、気軽に利用できる施設となるよう関係機関と綿密な連携のもと推し進めたい。

施設はややもすると、障害者や老人のために存在していると思っっている方が多いようですが、直接に必要としている方々だけでなく、健常者や学生、保育園児等地域の方々の施設でもあると考えます。

これまで、民生児童委員や婦人福祉協議会、日赤奉仕団等は折に触れて施設に訪れて、活動をとおして施設の状態を御理解いただいている地域の方々であります。それでも、施設が行っている福祉の内容を充分御理解いただいているのは、ごく一部の皆さまではないかと感じています。ご自身の家族などで、障害児、障害者、認知症の方、介護が必要な方を抱えた時にどう向き合っていけばよいのか、それぞれの家庭事情で千差万別です。

今までも、福祉を少しでも御理解いただくための、イベントとして不用品バザー、チャリティーマラソン、周年記念行事を行ってきましたし、それなりの成果もあったと思います。また、今も続いているものとして、鯖江・朝日事業所での創立記念行事、文

化祭、朝日事業所長杯ゲートボール大会、夏祭り、登山、キャンプ等があります。地域貢献事業として、ボランティアスクール、在宅の失明者への歩行訓練、近隣小学校での点字指導等も実施しています。これらの事業をとおして、日ごろ行っている福祉事業の紹介や、地域の方々が利用できる福祉サービス、困っている場合の相談方法など事細かに説明していき個別の対応が必要があると思っっています。

平成二十二年四月からは、地域の要望から朝日事業所の障害者施設・ライトホープセンターでショートステイ二床に加え、五名定員の日中一時支援事業を立ち上げ、連日たくさんの方がご利用いただいています。ショートステイは毎日空きがない状態で、待つて頂く場合もあり、日中一時支援事業は盲学校等の長期休暇（夏休み等）には特にご利用者が多く、大変ありがたいと喜ばれています。

当法人としては、採算の合わない事業があるのも事実ですが、民間事業者のようにやみくもに撤退することなく、地域が必要とする事業、制度の谷間を補う事業展開をしていくことが求められています。諸先輩が築いてきたスケールメリットを最大限に活かしながら、地域が求める福祉ニーズに応え、利用者満足度を常に念頭に置き、公共性・公益性の高い社会福祉本来の経営をめざし、他の主体では取り組むことが難しい公益的、先駆的な事業展開が一つでも二つでも実施できたらと考えます。



楽しみを心に描いて

第二光が丘ハウス（高齢福祉二課）

杉本 かおり

十月二十日、

Kさんと現担当職員の間口さんと私の三人で京都に行ってきた。一年前には「汽車に乗って金沢に行きたい」と希望された。金沢に行ってきたが、数日後「今度は京都に行きたい」「京都に行った事がないから」と言われ、毎日のように「京都の何処に行こうか、清水寺の坂を歩きたい」と話をされていました。しかし、体調がすぐれなかったり気候的に暑かったりとよい日がなく行くことが出来ませんでした。今年の春過ぎた頃から「京都に行きたいです」「京都の教会に行つてオルガンを弾きたいです」「お寺には行きたくないです」と言われるようになりました。Kさんは、とても熱心なキリスト教信者で、毎週日



曜日には教会の礼拝に参加され、生活の中では、点字の聖書を読んだり聖歌のCDを聞きながら寝られることもあります。また、とてもオルガンが上手で毎日オルガンを弾かれています。Kさんの希望されている京都の教会に加え「にぎやかな所に行きたい」と言われるため、Kさんと一緒に話し合つて嵐山に行く計画を立てました。

京都出発の朝は曇りでした。いつもは雨が降ると「恵みの雨です」と言われるKさんですが、今日ばかりは「雨が降らない様に祈ります」と言われ、とても楽しみにされているようでした。今回は、体調を考慮しタクシーを利用しました。タクシーの中では、聖歌を聞きながら口ずさみ、京都に着く間ずっと歌われていたので、着く頃には声がかれてしまうほどでした。京都キリスト教会では入口で迎えてくださった教会の方に案内されましたが、Kさんは、牧師さんとの挨拶もそこそこに「オルガンはハモンドオルガンですか、パイプオルガンですか」「オルガンを弾いてもいいですか」と尋ねました。

オルガンの練習を終えられた先生が「このオルガンは、パイプオルガンですよ。弾いてみますか」といってオルガンの所まで案内し説明もしてくださいました。『もろびとこぞりて』を歌いながら一緒にオルガンを演奏されていました。この事はKさんにとって、とても感激だったようで、タクシーに戻つ



てからも「感激した」「うれしいやら、感激したやら」と何度も言い、涙を流されていました。その後、昼食を済ませ、美空ひばり記念館に行きました。懐かしい歌を聞きながら口ずさみ、手を叩いたりして楽しんでおられました。そして、お土産

と想い出と共に園に帰ってきました。

四月になり個別担当が山口さんに代わったことで「この個別外出をきっかけに二人の良い関係ができたらしいなあ」と思っていました。山口さんも同じ思いだったので、この一日を通し、いろんな話をした。Kさんの喜ばれる様子を見て、今回、山口さんと一緒に行く計画をして良かったと思いました。

何事も意欲的で、いろんな事に興味を持ち、常に楽しみを探しているKさん。これからも出来る限り希望がかなえられるよう、Kさんとユニット職員とで話し合いながら勧めて行きたいと思っています。

正装にて・・・

ライフトレーニングセンター たねのいえ（療護一課）

岩尾 拓



人生にはいろいろな節目があり、お祝いがあります。若い利用者の多いたねのいえでは、ほぼ毎年二十歳の節目、成人式のお祝いが行われています。今年の新成人はいつも元気いっぱい清水麻有華さんです。

たねのいえにとつての成人式はほぼ毎年ですが、ご本人にとつては一生に一度のイベントです。今年も麻有華さんを祝うためスタッフのみならず、利用者にも力が入ります。

司会を依頼した利用者の青山汐里さんは、前日ギリギリまで台本作りをがんばって、当日しっかり司会をしてくれました。酒井栄実さんにはお祝いのお手紙をお願いしました。日頃の字の練習の成果を發揮して書いた手紙を、列席者の前で大きな声で読んでもらいました。畑健仁さんは今年もプログラムめぐりを担当です。正月に書初めをした際、半紙にみんなまで書いていただいた一つ一つのプログラムをタイムニングよく(?)破って、めくっていただきました。そのほかにも成人式恒例のくす玉割り、紙をちぎる、糊付けをするなど多くの利用者が持てる力を持ち寄って作ったくす玉を使用し、今年はいきれ



にくす玉が割れました。

さらに今年からは、利用者ご家族にも協力してもらいました。毎年、新成人ご本人とスタッフは正装で出席していたのですが、今年は参列する利用者にも正装してもらつように

ご本人、ご家族に準備を依頼しました。日頃、正装になる機会はスタッフ、利用者ともに多くはありません。サイズの確認、着替えの段取りと中々準備が大変ではあります。しかし、当日スタッフ、利用者ともにそれぞれ見慣れぬスーツ姿で揃えると、会場の雰囲気はピシッと引き締まります。そして、参列者の心も引き締まります。日頃はどちらかというと賑やかな、たねのいえ利用者の方々ではありませんが、この日ばかりは園長の祝辞を静かに聴かれたり、成人式の最後までちゃんと椅子に座っていたりと、厳粛なムード作りにスーツ姿のみなさんが大きく貢献していました。

逆に新成人、白のスーツ姿の麻有華さんだけはいつも以上のハイテンションでした。歩いて登場した

り、ステージの前に立ったりと主役らしく大忙しでしたが、主役としてのご自身の役割を元気にちゃんとこなしておられました。大人になった初仕事として式の最後には、みんなでお食べる大きなケーキを麻有華さんに切り分けてもらいました。職員としてはスーツにクリームが付かないかヒヤヒヤしましたがみなさん上手にケーキを食べられて麻有華さんの節目を祝うことができました。

成人式も終わり、無事に大人になられた麻有華さんですが「私にとつてはいつまでも子どもですけどね。」とお母さんは言われます。たしかに急に成長されてもさみしいものです。色々なお祝いを重ねて、少しずつ大人になって下さい。これからも麻有華さんとご家族に良い節目がたくさん訪れるようお願いしつつ、最後に一言「成人おめでとう。」





待っていた餅つき

光が丘ワークセンター（セルプ二課）

加藤 貴子

一年の恒例行事である餅つきが去る十二月七日、光が丘ワークセンターで行われました。

朝早くから、玄関には、杵と臼が用意され何段にも積み重ねられた蒸籠の中にはもち米がぎっしりと詰め込まれていました。

玄関、廊下には蒸しあがったお米の何とも言えない、いい匂いが充満してきました。「ペッタン、ペッタン」男子職員が杵を力いっぱい振り上げお餅をつく音が響き渡ります。

利用者の皆様でお餅をついてみたい希望者数名が男子職員と一緒に掛け声に合わせて杵を振り上げます。「ソーレー」「ペッタン」真っ赤な顔をして杵を振り上げる姿はとてたくましく感じました。以前はこのよ



うな杵でお餅をつく家庭がお正月には見られませんが今は少なくなり、何かの行事やお祝いの時に行く風習に変わってきたように思われ、家庭的で温かいものを感じました。

あん、きなこ、おろし餅は栄養士と数名で一口大に丸められ一つひとつ愛情のこもったお餅に仕上がりました。丸められたお餅はいくつ出来上がったのでしょうか？「お餅が固くならないうちに食べていた

だかないとね。」

お餅が出来上がり一斉放送が棟内に流れると作業をしておられた利用者の皆様が出てこられました。「おお、いい匂いがするぞ。」「御飯の炊きあがった匂いと一緒だ。」廊下を歩きながら話をしている声を聞き楽しみに待っておられる様子が感じられました。「あん、きなこ、おろし餅があります。慌てずにゆっくりと噛んで食べて下さいね。」いつもお餅が出た時には必ずこの様な声掛けを利用者の皆様にさせていただけますが大好きなお餅ですから、ちょっとゆっくりとはいきません。「おかわりもありますからね。」なんて声を掛けると益々早く食べられる方もおられるようです。「きなこ餅二つ下さい。」「おろし餅二つ下さい。」食堂の中はおかわりの声掛け職員はバタバタと大忙しです。おかわりとして用意された三種類のお餅もすっかりなくなっていました。光が丘ワークセンターの利用者の皆様はお餅が大好きなようです。

日本では昔からお餅を食べることで生命力の再生と補強を願ってきたと言われていました。利用者の皆様も、今年一年間、元気に毎日を過ごされますよう、そしてまた十二月には光が丘ワークセンターの玄関で威勢よく餅つきを行い新しい年を迎えられますようにと願っています。



フ・クレール紹介コーナー

フ・クレールのパン、クッキーをいつもご利用ありがとうございます。

たくさんあるクッキーの種類の中でも、一番人気の商品はスノーボールクッキーです。まっ白いプレーン味、緑の抹茶味、茶色いコーヒー味（ほろにが、大人の方に大人気）、うす茶色のメープル味、冬季限定チョコスノーボール、春季限定いちごスノーボールと色・味ともバラエティー豊富にとりそろえております。

スノーボールクッキーは、ひとつひとつ“おいしくなあれ”と祈りながら丸めています。ピーカンナツの香ばしい、ほろほろと口の中でとろけるようなおいしさです。ぜひいろいろな味をお試しください。各種6玉入り150円です。

各種その他のクッキー、焼き菓子もそろえております 手土産・法事などにご注文お待ちしております。

平日11時半には焼きたてパンが出来あがっております
10個以上の御注文の場合は前日までに連絡をお願いいたします。

クッキー工房 フ・クレール
電話 0778-34-2121 FAX 0778-34-8005



新年会

ライトワークセンター（セルプ二課）

水島憲一

二月六日に出雲大社福井別院へ新年会に行ってきました。雪が深々と降っていて、今年の大雪を占うかのような天候でした。それでもライトワークセンターの皆さんは元気いっぱい！そのような天気に負けません。雪を溶かす勢いで出発しました。到着するとまずはご祈祷です。

「今年がよい年でありますように」厳かな雰囲気の中で、神主さんにお払いしていただき、巫女さんが舞う姿を真剣に見つめられていました。それぞれの思いを強く抱きお祈りをされています。ご祈祷のあとは絵馬やお守りを買います。ご自分の分はもちろんご家族やお友達、職員の方まで買われ「皆が幸せになってほしい」という優しい心が伝わってきました。人を想える心、その心がある皆さんは絶対に幸せになります。

お買い物のおあとはお食事です。豪華なお料理と



お酒がテーブルいっぱいになり、ボルテージは最高潮！皆さんの一番の目的はこれだったのかも。美しく盛り付けられたお料理を一口ほおばるとほっぺが落ちます。ビールにお酒、ほろ酔いかげんで話も盛り上がりました。お腹が満たされた頃、ライトワークセンターのアイドルや歌姫たちがぞくぞくと登場してカラオケで場を盛り上げてくださいました。お食事を楽しまれた後は還暦と成人のお祝いをしました。還暦を迎えられた方四名、成人を迎えられた方一名。大きな拍手でむかえられ、五名の方がステージに上がります。少し緊張され、それでも胸をはって堂々とされているその姿からは、人生の節目を迎えられ「気持ち新たに頑張る」という秘められた思いが伝わってきました。五名の方々それぞれの仲の良いお友達から記念品を受け取りお祝いの言葉をいただきました。改めて普段は言えないような感謝の気持ちを話され、少し照れながらもお互いに喜びを感じられていたようです。笑顔で握手されるお姿からは強い絆を感じました。そのお祝いの言葉のなかに「皆さん成人式おめでとございます」という言葉がありました。還暦の方は三回目の成人式だそうです。四名の方々は、年齢を感じさなほほど元気なお姿です。これからライトワークセンターを支えていくくださる方とその人を導いてくださる方、職員も含めた大家族です。大家族の外出行事は無事に楽しく行えることができました。あたたかく迎え入れてくださった出雲大社の皆様、ご協力いただきましたボランティアの皆様、心から感謝いたします。

では最後に還暦・成人を迎えられた方々にインタビューをしてみましよう。今年の目標をきかせてください。「ピアノと作業がんばります」「外食しておいしいものを食べたい」「そんなこと急に聞かれてもわからないよ」「男性職員を全員、上手投げしてみせる」「今までと変わらず生きてゆければ幸せです」「謙虚な方々ばかりです。そんな皆さんの願いは必ず叶います。今年はお年一ピョンピョン飛び跳ねて、皆様にとって飛躍の年でありますように。」

ありがとうございます ございました

いつも光道園ライトワークセンターの『陶華星』を応援して頂き、誠にありがとうございます。

昨年は、皆様の多くのご支援、激励を頂き干支作り及び販売を無事終えることが出来ました。重ねて御礼申し上げます。

さて、新年に入り陶芸部門「陶華星」では、五月の陶芸まつりに向けて製品作りに励んでおります。皆様に喜んで愛用頂ける商品を目指して、日々精進致しております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

のぞみ工房 陶華星

TEL 〇七七八ー六二一八ー〇三
FAX 〇七七八ー六二一三三七七五





笑顔があふれる棟活動

ライトホープセンター（援護一課）

堀

まゆみ



十一月、文化祭シーズンとなり、ライトホープセンター玄関ホールが作品の展示会場に早変わりしました。絵や書、編物や縫い物などの手芸品、生花とたくさん作品が展示されました。どの作品も利用者がクラブ活動や個別活動、趣味の時間に作り上げた力作ばかりです。職員は一つひとつの作品がより引き立つようにレイアウトしました。

援護一課からは、リサイクルクラブ員が作ったエコバック（古新聞とハギレを再利用して作った袋）とパネルには創作クラブ員による一年間の活動内容の紹介と、珠のれんなどの個人作品のほか、棟活動で一人ひとりが作ったネームプレートを展示しました。



棟活動は、比較的体力があり活動的な南棟の利用者と、体力面や車椅子使用などで活動範囲の少ない中央棟の利用者とに分かれて行っています。天候の良い日は散歩が中心で『古墳公園』や『道の駅』に出かけたりしました。マイクロバスで『健康の森』の緑や『泰澄の杜』のぶどう狩りも楽しめました。南棟の利用者は地元（越前町西田中）の商店街を散策したり、コスモス園や運動公園、店内に植物がいっぱいの喫茶店に入ったりと様々な活動を通して利用者は新鮮な風に触れ「こんなところがあるんや」と感動されて、園内での時とは違う笑顔を見せていただきました。屋内ではレクリエーションや簡単なおやつ作り、バーベキュー会なども行いました。文化祭の作品作りは7月頃から作り始めました。南棟の利用者は厨房の協力を得て、一人一枚のかまぼこ板を準備されました。それを磨いてきれいなプレートにして、自分の名前を貼ったり、細かいスパンコールやビーズを飾ったりして手先の器用さを発揮されました。中央棟の方々は市販の好みのプレートを選択され、飾り付けはふわふわの毛玉や花や車のアップリケを触って貼り付けました。「Tさん、何色にしますか?」「ピンクがいい」「Sさん、何を付けますか?」「富山出身やで、チューリップや」と自分の部屋の入り口に飾るネームプレートですから、色も形も模様も全部ご自分で決められました。

シンプルなもの、飾りがいっぱいにぎやかなものと、それぞれに個性的な自分だけのものが出来ました。その他に、南棟の利用者は紙粘土のキーホルダー、中央棟の利用者は貼り絵を作り、展示されました。

棟活動を通して、外出した時の笑顔や、作品が出来上がった時の喜びの顔と様々な表情や感動を見せていただくことが出来ました。来年度は利用者の声をもっと取り入れ、一人ひとりが持てる力を発揮できるような、利用者主体の棟活動を計画していきたいと思っています。

今日も利用者の各居室ドアに飾られたネームプレートが微笑んでいます。是非、援護一課にお越しください。



感謝いたします！

クリスマスケーキ贈呈

平成22年12月21日、22日の午前中に光道園鯖江事業所において株式会社 法美社様からクリスマスケーキをプレゼントしていただきました。早速午後のクリスマス会のときに、おいしくいただきました。

毎年、おいしいケーキを本当にありがとうございました。



当日は天気にも恵まれ、日頃お世話になっているボランティアや、民生員の方々に「ご参加頂き、「笑いと健康」についてご講演いただいた後、落語を楽しみました。」
講演では、「身体が健康であるのとは言うまでもないですが、心も健康に生きていますか？昨今、笑いは健康に何よりもいいと言われています。でも心が豊かで健康でなければ、思いつきり笑うことはできません。笑いましょう！、心豊かで健康的な笑いを推奨します。…」とありました。
途中、休憩があり次に落語が演じられました。
三風さんのこだわりとして、『ライブ（生）であること、自由な発想でお客様に喜んでもらうこと』だそう。そこで三風さんはこれまでの落語やあるいはテレビのような一方通行の笑いではなく、三風さんとお客さんが同じ空間にいることを最大限に



の三風さんをお招きし、「講演会と落語」を開催しました。

平成二十三年三月六日（日）、朝日事業所ライトホール プレゼンター二階で光道園主催の公開セミナーが開かれました。
今回は、大阪から落語家の

第十回 光道園公開セミナー テーマ「笑いと健康」

しかし、その楽しさを味わえる「客席参加型落語」として演じられました。始めに簡単な説明があり数回の練習の後、嘶の最後に三風さんの手の合図で手を上げたり声を出さずなどしました。三風さんが「ソーレー！」と言って手を上げるとお客さんも「ソーレー！」と声を出して手を上げて落語に参加されました。

参加者の方からは、「楽しく笑わせていただきました。」「客席参加型落語」というのを初めて経験しました。」「笑いでストレス解消です。」「日常生活の中からの話題を取り入れてとても楽しい時間でした。」「笑いは健康に良いと身を持って感じました。すばらしい講演でした。」などがありました。



平成二十二年 度 生活支援事例報告会

企画調整室 高岡尚以

光道園では毎月一回重複障害講座という名の職員研修があります。各課から一名ずつ職員が参加し、福井大学の松木先生を中心にアドバイスをいただきながら、利用者の方とのかかわりや様々な思いを話し、話すことで自分を振り返って見つめなおしていく機会となっています。

その集大成である生活支援事例報告会が三月二日（水）～四日（金）に開催されました。

福井大学石井先生、中村先生、県立大学の小林先生、上越教育大学の土谷先生、宮城教育大学の菅井先生、光道園の元副園長の測辺先生にアドバイザーとしてお越しいただき、これからの支援に結びつけていく丁寧なご助言をたくさん頂きました。そして今回は光道園の職員他、県内の施設の方、学校の先生、また県外からの大学の先生と学生さんの大勢のご参加をいただき、特に一日目の発表では、会場からあふれるくらいでした。

『もっと知りたい。かかわりたい』という発表者の思いが、会場の皆さんと共有できたひとときだったと思います。職員の方の素直な喜びを共有でき、利用者の方の一瞬の仕草や笑顔、ポツリとつぶやいた一言に新しい係わりを見つけ出す楽しさを感じました。本当にみなさんお疲れ様でした。そして有り難うございました。

先生方からは、いろいろな角度からのご助言をいただきました。人と人との関係、その人の思いを受けとめることの大切さ等を改めて考えることができました。以下、出席された方々のアンケートの抜粋です。

『報告会に利用者本人が出席されていることに驚きました』

『利用者の様子、職員の苦労を想像することができ大変な仕事だと改めて感じました』

『報告会の後にグループ討議やディスカッションなどがあると取り組みに対する詳細が聞けて良いと思います』

『報告書があり読めば分かるという感じの発表だったのでもっとパワーポイントを工夫して出演者が顔を上げて聞く報告会になるといいなあと考えた』

『楽しみは三回味わうことができる』という言葉が印象に残りました』

『パワーポイントの内容を文書として用意してあったので良かったです』

平成二十二年十月～二月採用

新任職員の紹介

★氏名 ①血液型 ②星座
③趣味 ④印象的な映画

朝日事業所

支援一課

★大林 勇太



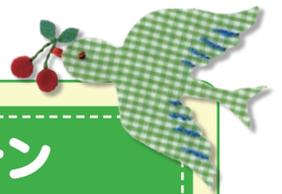
① B型

② おとめ座

③ ギター、サッカー

④ 「博士の愛した数式」

「トイストーリー3」



第1回 鯖江グリーンカーテン コンテストで特別賞を受賞しました！

平成23年2月11日（金）鯖江市鶴陽会館において、鯖江市とNPO法人「エコプラザさばえ」主催のグリーンカーテンコンテストが行われ、事業所・



団体の部でその完成度を認められ「特別賞」を受賞しました。

鯖江事業所では昨年初夏頃からゴーヤ栽培による緑のカーテン作りを行ってきました。それによって建物外観が緑に覆われ、太陽光の室内への差し込みが和らぎました。微力ですが地球温暖化防止意識を高めることに貢献したのではないのでしょうか。

なお副賞としていただきました金一封は次回コンテストへの準備代として活用させていただく予定です。



飲酒運転根絶寄せ書きコンクールで 鯖江市長賞を受賞しました！

平成23年2月9日（水）、鯖江市文化の館において鯖江市交通事故防止対策協議会の牧野百男会長（鯖江市長）より表彰を受けました。

このコンクールは昨年9月頃、光道園の総務一課および企画調整室の職員が寄せ書きを作成して応募したものです。今年は880点の応募があり、寄せ書きで5事業所・ポスターで12名の方が表彰されました。

これからも悲惨な飲酒運転による交通事故防止を今まで以上に努めてまいります。



光が丘ワークセンター建物塗替



建物外壁の劣化により9月後半より塗装工事を開始しました。利用者の方には約1ヶ月間、出入りの際に不自由をおかけいたしました。11月初旬には淡いクリーム色の綺麗な建物に様変わりしました。

社会福祉法人 光道園の施設		養護老人ホーム・第一光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
社会福祉法人 光道園 法人本部	鯖江市和田町 9-1-1	養護(盲)老人ホーム・第二光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライトワークセンター	鯖江市和田町 9-1-1	特別養護老人ホーム・第三光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・光が丘ワークセンター	丹生郡越前町朝日 22-2-2	通所介護事業所・デイサービスセンターさざんかホール	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライトホープセンター	丹生郡越前町朝日 22-3-1	訪問介護事業所・ヘルパーステーションさざんか	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライフレニングセンター	鯖江市和田町 9-1-1	居宅介護支援事業所・さざんかホール	丹生郡越前町朝日 22-7-1
日中生活介護事業・たねのいえ	鯖江市和田町 9-1-1	越前町障害者支援センター・さざんか	丹生郡越前町朝日 22-7-1
		障害者支援センター・こうどうえん	鯖江市和田町 9-1-1